



令和4年度 校長だより

令和4年12月23日(金)

春日の風

No.10

文責 松下 義彦

後期前半の終業日にあたって

みなさんこんにちは。今日で後期の前半が終わり、明日から冬休みに入ります。そして、後一週間もすれば2022年が終わり新しい年2023年がやってきます。今年的一年はみなさんにとってどんな一年間だったのでしょうか。今年、感染対策が進み、新型コロナウイルスの影響もさほどなく、昨年度まで実施できなかった学校行事も復活し、少しづつではありますが、前の学校の様子を取り戻してきた感があります。そんな中で、夏休み以降もみなさんの活躍する姿を様々な場面で見ることができました。文化発表会では各クラスの素晴らしい合唱やステージ発表での数々の生き生きとした発表の姿、さらには、授業や部活動での数々の力を込めた作品が展示されるなど、みなさんの頑張りの成果が表れていました。また、部活動では中体連新人大会において、日頃の練習の成果を発揮するために一生懸命頑張っていて試合に臨んでいる姿を見ることができました。その中でも県大会に出場し、見事優勝をした女子剣道部、3位になった女子ソフトボール部の活躍は素晴らしいものです。これからもいろんな場面でのみなさんの活躍を期待しています。

さて、1年の締めくくりにあたり一つ話をさせてください。

パナソニック創業者 松下幸之助さんが次のようなことを言っています。

「人と比較をして劣っているといっても、決して恥ずることではない。

けれども、去年の自分と今年の自分とを比較して、もしも今年が劣っているとしたら、それこそ恥ずべきことである。」

この意味がわかるでしょうか。人はそれぞれ、もっている能力が違います。得意なものもあれば、苦手なものもあるはず。例えば、勉強は苦手だけれどスポーツは得意な人、あるいは勉強は嫌いだけれどお菓子作りなら自信がある人など、また、その逆の人もいるでしょう。だから人と比較して自分ができているとか、できていないとかを考えても意味がないことであり、人よりできていなくても何も悲観することはありません。でも、自分のことに関しては、日々の生活の中で様々な経験をし、考え、日々成長していかなければなりません。先ほど言った例で言えば、スポーツが得意な人は更に上手になるように、お菓子作りには自信がある人はさらにおいしいお菓子を作れるようになることです。そのために、自分の行動を振り返ってみて、去年の自分より成長が見られない時には「努力が足りなかったんだな」と反省しなければなりません。それが人が成長するということです。それは、大人になってからもそうです。

みなさん、もうすぐ2022年が終わろうとしています。これを機会に今年1年間を振り返ってみて、去年の自分より成長できたかを考えてみてください。

さて、話しは変わりますが、冬休みが終わると、3年生はいよいよ受験という大きな試練が来ます。

しかし、厳しい道を我慢すると輝く未来が見えてきます。厳しさをいやがったり恐れてはいけません。いつも、チャレンジする気持ちを持ってください。

1・2年生は今年の締めくくりをしっかりして欲しいと思います。

先ほども言いましたが、この一年間がどんな一年間だったのか振り返ってください。「一年の計は元旦にあり」といいます。これは、何事も最初に計画や準備をすることが大切だということです。年の初めに、新しい年の目標をしっかり考えて欲しいと思います。それではみなさん、良い年を迎えてください。新年も元気に会いましょう。

